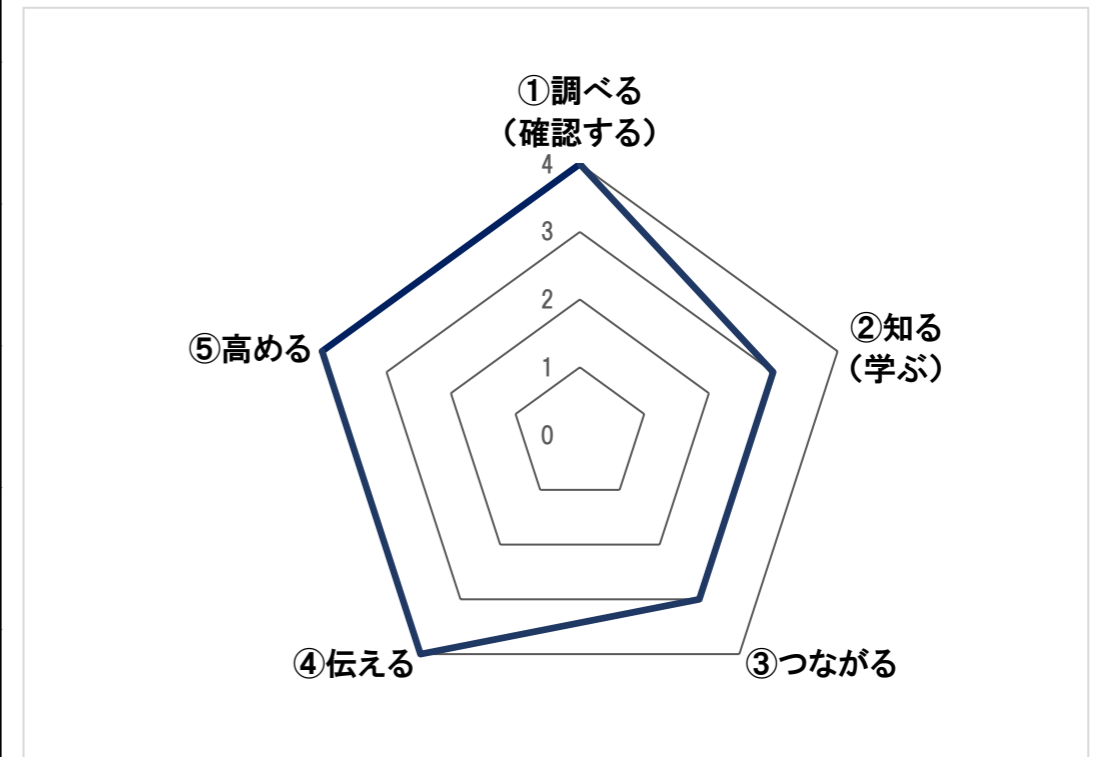


# 幌別小学校区

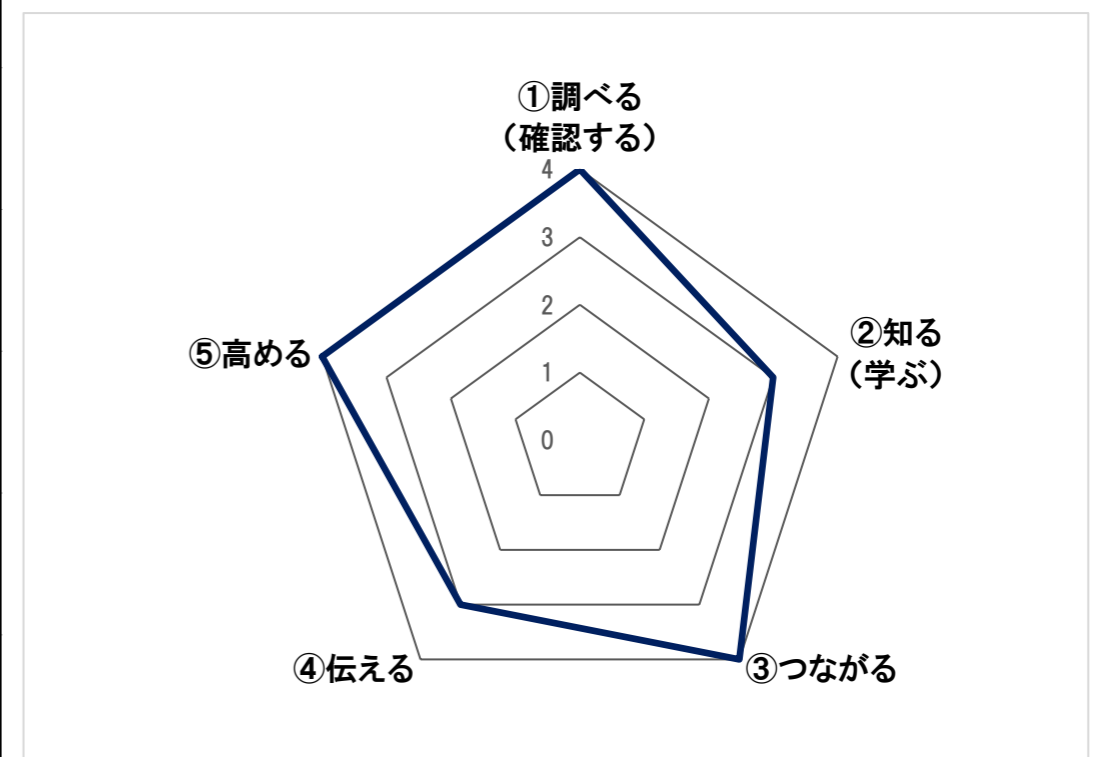
## 校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	校区きずな推進委員会や各種会議等において、都度地域の状況を確認した。	4	会議の場はもちろん、普段の地域での活動の場から直接状況を確認する機会が必要である。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかったが、各地域では活発に行われている。	3	状況を見ながら、その時取り組めることを行っていく。
③つながる	校区きずな活動を推進するにあたり、適宜関係する団体等とつながりを持った。	3	つながりを生かし、地域住民の暮らしを支えていく。
④伝える	日々のきずな活動において、きずなの必要性を伝えていった。	4	継続して実施する。
⑤高める	きずな活動を通して、地域福祉への意識の維持・向上を図った。	4	なぜきずなや地域福祉活動等が必要なのかを再確認し、単なる取り組み内容の伝承ではなく想いを伝承していく方法を検討する。



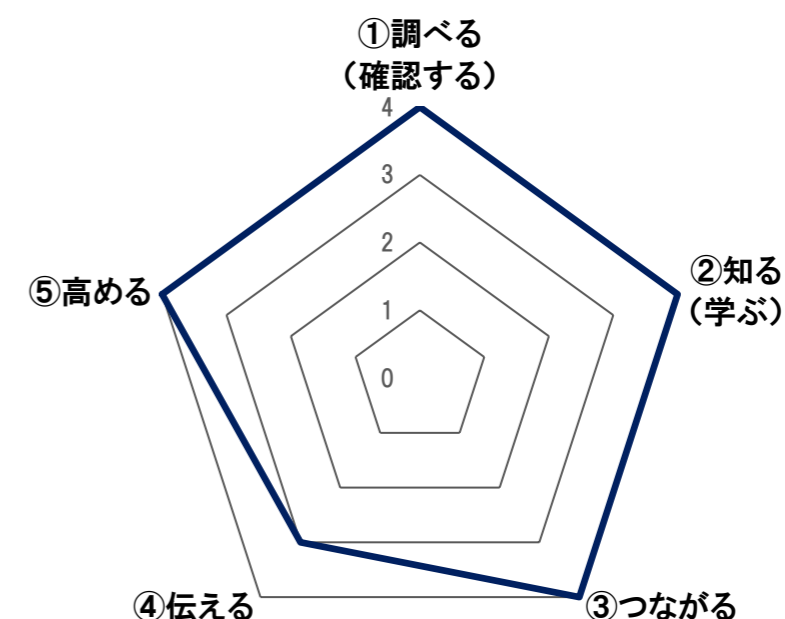
## 日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	地域の状況に応じた見守り活動が実施されている。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかった。	3	見守り活動に関わる担い手に対する、福祉活動の意義や目的を学ぶ機会を設ける必要がある。
③つながる	町内会や民生委員・児童委員とが連携し合いながら活動を進めた。	4	より関係機関・団体等と地域の課題について話し合う機会が必要。
④伝える	日頃の活動を通して伝えているが、どれくらい浸透しているかは分かりかねる。	3	地道に伝え続けていく必要がある。
⑤高める	日頃の活動を通して地域の意識が高まるよう努めている。	4	継続して実施する。



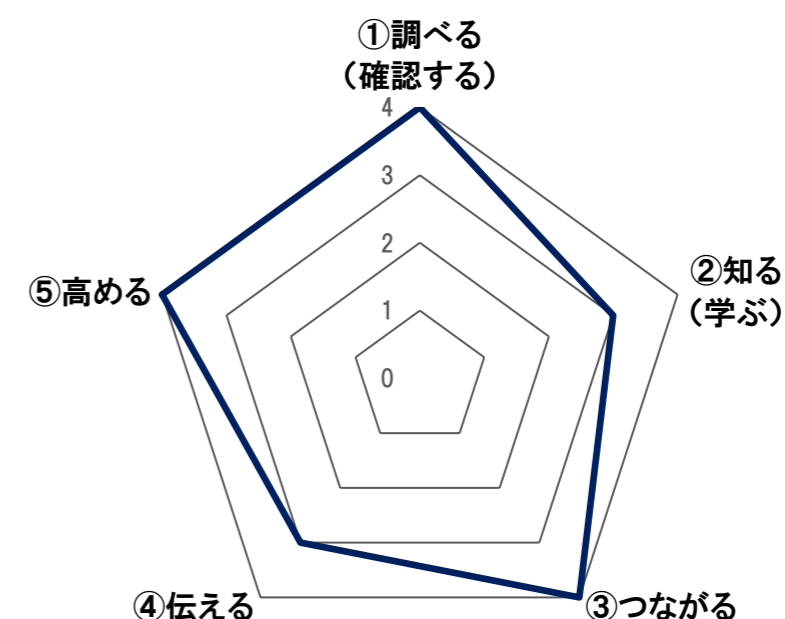
## 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロンの推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	サロン活動によって、地域の実情を確認する機会となっている。	4	コロナ禍で十分なサロン活動が行えるかは不透明であるが、出来ることを進め、都度振り返りを持つ機会は必要。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかったが、地域ごとには学ぶ機会を独自に設定していた。	4	都度振り返りや反省を継続して行っていくことが学びにつながる。
③つながる	ニナルカの里で行われたサロンにおいて、町内会・民生委員・老人クラブ・専門職等がつながる機会となった。	4	関係機関・団体等と連携し合い、校区の福祉について考えることが必要。
④伝える	きずなや福祉活動の必要性を伝える場として行ったが、理解が進んでいるかは不明である。	3	継続して地域住民が安心して暮らせるための福祉とはなにかを伝える機会として機能させる。
⑤高める	地域の居場所として地域福祉の向上に寄与した。	4	コロナ禍の影響で先行き不透明であるが、継続して実施していく。



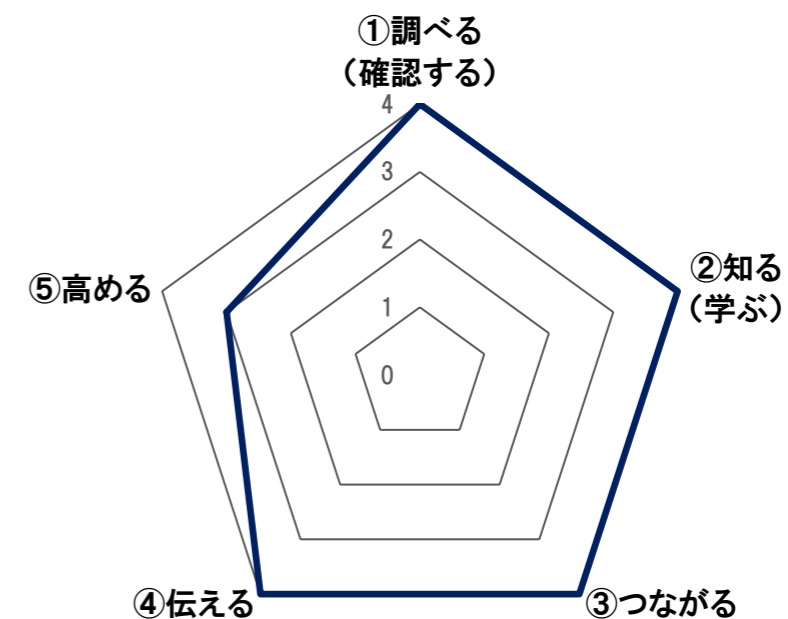
## 高齢者・障がい者等の声かけ見守り(向こう三軒両隣)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	鍵預かりサービス事業の実施等により、地域の実情を確認しながら活動を進めた。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかった。	3	コロナ禍の影響により先行き不透明であるが、声かけ見守りの必要性について学ぶ機会を設定する。
③つながる	各種事業を通じて、様々な福祉関係者とつながりあうことができた。	4	継続して実施する。
④伝える	活動を通じて、高齢者や児童への声かけ見守りの必要性などを伝えている。	3	活動の方法よりなぜ必要なのかなど想いの部分を伝えていく。
⑤高める	活動を継続することが、地域福祉の意識や価値を高めることにつながる。	4	継続して実施する。



## 防犯・防災活動

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	各地域において、胆振東部地震の経験等を生かしながら活動が行われている。 地域によっては福祉施設見学等を行い、自分たちの地域にどのような資源があるか確認し、避難所の検討を進めた。	4	これまでの教訓を踏まえ避難場所などの確認・検討を進めていく。
②知る (学ぶ)	日々の活動において防災・防災への学びに自然に寄与している。 地域によっては学びのために施設見学を実施した。	4	継続して実施する。
③つながる	日頃のつながりを生かしながら、適宜関係者をつながりを持っている。	4	継続して実施する。
④伝える	日頃からの防犯・防災に関する取り組みの必要性を伝えていく。	4	自主避難所の重要性やあり方などについて地域が考えられるように働きかけていく必要がある。
⑤高める	自助・互助の意識の高まりに寄与した。	3	きずな推進委員自身が校区の福祉の第一線にいるという自覚を持ち、学んでいく姿勢が必要である。



## 校区きずな推進委員会 委員

リーダー	畠山 重信	きずな推進委員	前野 充紀子
サブリーダー	竹中 脩巖	きずな推進委員	八島 年勝
サブリーダー	山崎 敏男	きずな推進委員	脇 俊昭
きずな推進委員	千葉 一男	校区きずな推進委員	及川 富夫
きずな推進委員	伊清 淳彦	校区きずな推進委員	今 平人

## 1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
5月22日	第1回幌別小学校校区きずな推進委員会	6名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画の実施内容について

## 2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

札内・来馬地区連合町内会	新栄町内会
千歳町内会	緑ヶ丘町内会
南千歳町内会	常盤町内会
中央町駅前町内会	中央町十字街町内会
中央新生町内会	中央町内会

実施率 72.2% ( 13 / 18 )

## 3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあいいきいきサロン、ふれあい会食会)

### ふれあいいきいきサロン

ゲンキアップニナルカ	いきいきサロン南千歳
われら・いきいき探偵団	中央東町内会いきいきサロン
常盤ラポール・サロン	

### ふれあい会食会

千歳町内会	ニナルカ町内会
緑ヶ丘町内会	南千歳町内会
常盤町内会	中央町十字街町内会
中央町内会	中央東町内会

実施率 44.4% ( 8 / 18 )